

琉球諸語のとりたて助詞カラ

狩俣繁久

要旨：琉球諸語に格助詞カラと同音形式のとりたて助詞カラのあることが見逃されてきたが、金田章宏・周玥（2021）は宮古語に格助詞カラと同音形式のとりたて助詞カラのあることを報告している。本発表では、琉球諸語のとりたて助詞を概観し、格ととりたての定義に照らして、助詞カラが文中の物事を現実世界の類似の物事の中からとりたてて、文中の物事が先に実現することを表すとりたての働きを有すること、そのカラが琉球諸語全体に見られることを報告する。

1. はじめに

話し手は、対象的な内容として文に取り込まれた物事を現実世界の物事に関係づけて聞き手に伝える。対象的な内容を巡って話し手の立場からなされる、この“関係づけ”＝“陳述的な関わり”は陳述性を構成する文法的カテゴリーの一つである。話し手が文の内容として取り込んだ物事と現実世界の物事との間の陳述的な関わりがとりたてである¹。

とりたてられるのは、文を組み立てる主語、補語、状況語、連用修飾語、述語である²。名詞の格形式によって表される主語、補語、状況語、連用修飾語をとりたてるのだが、とりたては、形式的にはとりたてたい物事を表す名詞の後にとりたて助詞を付ける。格ととりたては密接に関わり、格助詞ととりたて助詞が組み合わさって“格＝とりたて形”をつくる³。

本発表で取り上げるとりたて助詞は以下のものである。

表1. とりたて助詞

	対比(は)	共存(も)	特立(こそ)	限定(だけ)	極端(まで)	序列(から)
大和村国直	ヤ	ダカ	ドウ	ベェ [°] ーリ ⁴	ガディ [°]	カラ
知名町正名	ワ	ム	ドウ	ベー	タベ	カラ
今帰仁謝名	ヤ	ン	ドウ	ビケー	マディ	ラ
佐敷富祖崎	ヤ	ン	ル	ビケーン	マディ	カラ
南城市久高島	ヤ	ン	ル	バカーン	マリ	ラ
宮古島西里	ヤ	マイ	ドウ	チャーン	ガミ	カラ
石垣島石垣	ヤ	ン	ドウ	タンガー	マディ	カラ

¹ 日本語記述文法研究会(2009)は、とりたてを「文のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えること」と定義し、沼田善子(2000)は、「文中の種々な要素をとりたて、これとこれに対する他者との関係を示す」と定義している。

² 述語もとりたてらるが、格との関連性に焦点を当てる本報告では触れない。狩俣繁久(2019)を参照。

³ 鈴木重幸(1972, p231)は「格ととりたてのカテゴリーはからみあっていて、格＝とりたてのカテゴリーとしてからみあっている」と述べている。

⁴ 小添字に半濁点を付したイ[°]は中舌狭母音 i を表すカナ文字で、エ[°]は中舌半広母音 e を表すカナ文字である。

2. 格=とりたて形の作りかた

格=とりたて形の作り方には次の三つのタイプがある。

(a) とりたて助詞が格助詞の後に付く。

主格のガ、ヌ以外の格助詞には、とりたて助詞が付く。特立のドウ・ルは全ての格助詞の後に付く。

- (1) ヤッチー-ガ=ル サキ ヌムタンドー。⁵
(兄さんが 酒を 飲んだんだよ。) 富祖崎
- (2) アザ-ガ=ドウ サキュー ヌム°タス°。⁶
(兄さんが 酒を 飲んだんだ。) 富祖崎
- (3) ジロー-ンカイ=チャーシ ジンヌ フィータス°
(二郎-に=だけ お金を あげた) 西里
- (4) スウー-ユ=マイ ファイ。
(野菜-を=も 食べる。) 西里
- (5) ?ニーカリヌ⁷ トウキンニヤ ワラブイ°-ニ=ガディ° カスイ° スイ°ラスイ°リ。国直
(稲刈りの ときには 子ども-に=まで 手伝わせる。)
- (6) ウヌ パナススーパー タロー-ンカイ=チャーシ=ドウ クスカシ フィータス°。
(その 話は 太郎-に=だけ 聞かせて あげた。) 西里

主格のガ、ヌをとりたてるときは格助詞ととりたて助詞が置き換わる、次の (b) のタイプになることが普通だが、沖縄語今帰仁村謝名方言、那覇市泉崎方言、南城市佐敷富祖崎方言、南城市久高島方言の対比のヤ (は) は、日本語と違い、主格を表す格助詞のガ、ヌの後にも付き⁸、主語の動作の主体、状態の持ち主を表しながら対比の意味を付加する⁹。

- (7) イッター シザ-ノー ミーランサ。ワッター カミンチュ-ヌ=ル ミーユル。富祖崎
(おまえら 一般人-に=は 見えないよ。私ら 神女-が=こそ 見えるのだよ。)
- (8) イッター-ガー カミジャーシカイヤ ジョーイ カナーンサ。富祖崎
(おまえたち-では 亀千代には どうしたって 敵わないよ。)

謝名方言、泉崎方言、富祖崎方言は直接対象を表す対格助詞がなく、直接対象はハダカ格が表す。ハダカ格の名詞にとりたて助詞が付くばあい、とりたて助詞が格助詞に置き換わる

⁵ 格助詞の前にハイフン-を、とりたて助詞の前に二重ハイフン=を付す。

⁶ 宮古語に見られる成節的な子音 m、z をム°、ス°とカナ表記する。

⁷ 左方に?を付したカナ文字はその音節の頭子音が喉頭音化した子音であることを表す。

⁸ 国直方言、正名方言、石垣方言でも同様の現象が見られるかについては未調査である。

⁹ ヤがついて融合したガー(がは)、ノー(がは)は、「には」、「では」に訳すると、そのニュアンスが伝わりやすい。「は」に訳すると、通常の主題表現のようになって、動作主の特立の明示性が弱まる。バイリンガルの年配の話者が日本語を話すとき、「がは」のように主格の「が」に「は」を付けて話す(「おまえたちがは敵わないよ。」)。

タイプ(b)と外形上は区別がつかない。

- (9) ヤッチー=ヤ サキ=ル ヌムタンドー。
(兄さんは 酒を 飲んだんだよ) 富祖崎
- (10) タローヤ ウンナ クトウ=マディ シッチョーン。
(太郎は そんな こと=まで 知っている。) 富祖崎

(b) とりたて助詞が格助詞と置き換わる。

対比のヤ(は)、共存のン(も)は主格のガ、ヌをとりたてるときは、とりたて助詞がガ、ヌと置き換わる。極端のマディ(まで)は格助詞ガ、ヌだけでなく他の格助詞のばあいでも置き換わることがある¹⁰。

- (11) ヤッチー=ヤ サキ ヌムタンドー。
(兄さん=は 酒を 飲んだよ) 富祖崎
- (12) ヤッチー=ン サキ ヌムタンドー。
(兄さん=も 酒を 飲んだよ) 富祖崎
- (13) アザ=マイ サキュー ヌム°タス°。
(兄さんも 酒を 飲んだ。) 富祖崎
- (14) ヤーフチスージネー ウフハーメー=マディ モーイタン。
(新築祝いでは 曾祖母=まで 踊った。) 富祖崎
- (15) ニニカイヌ トウチャ ワラビンチャー=マディ ティガネー シミーン。 富祖崎
(稲刈りの ときには 子ども=まで 手伝わせる。)

(c) とりたて助詞が名詞と格助詞の間に入る。

謝名方言、泉崎方言、富祖崎方言、久高島方言、石垣方言の限定のビケー、バカーン、タンガーは名詞と格助詞の間に入る。奄美大島大和村国直方言(21)と宮古島市西里方言(22)の限定のガディ、チャーンは名詞の後に付く。

- (16) タロー=ビケー-ガ クァーシ ?ケータン。
(太郎=だけ-が 菓子を 食べた。) 謝名
- (17) ジロー=ビケーン-カイ クジケー イーラチャン。
(二郎=だけ-に 小遣いを あげた。) 富祖崎
- (18) タロー=ビケーン-カイ ジン クィタン。
(太郎=だけ-に お金を 上げた。) 泉崎
- (19) タロー=バカーン-カイ ジン クィタン。
(太郎=だけ-に お金を 上げた。) 泉崎
- (20) ウヌ パナセー タロー=タンガー-カイ スカスダ。
(その 話は 太郎=だけ-に 聞かせた。) 石垣
- (21) ?ニーカリヌ¹¹ トウキンニヤ ワラビィ°-ニ=ガディ° カスイ° スィ°ラスイ°リ。 国直

¹⁰ どんな格助詞のばあいにとりたて助詞が置き換わるのかについての詳細は今後調査を進めて明らかにしたい。

¹¹ 左方に?を付したカナ文字はその音節の頭子音が喉頭音化した子音であることを表す。

(稲刈りの ときには 子ども-に=まで 手伝わせる。)

- (22) ウヌ パナススーパー タロー-ンカイ=チェーン=ドウ クスカシ フィータス°。
(その 話は 太郎-に=だけ 聞かせて あげた。) 西里

(d) 西里方言のドウはとりたて助詞の後にも付くことができる¹²。

特立のドウ・ルはとりたて助詞の後にも付く。謝名方言、泉崎方言、富祖崎方言、久高島方言はヤ、ンの後には付かないが、西里方言はマイ (も) の後に付く。

- (23) マイニツ ム°-ム=チャーナ=ドウ ファイユータス°。

(毎日 芋-を=ばかり 食べていた。) 西里

- (24) コーッサ ハナコ=カラ=ドウ フィータス°。

(お菓子は 花子=から 上げた。) 西里

- (25) フ°ァーフ°ァーガ ス°シウイ¹³ ヤタサー ヤーニンズ=バカーン-ガ=ル ワカト
ウータル。(祖母が 年上 だったのは、家族=だけ-が 知っていた。) 久高島

- (26) ウヌ パナススーパー タロー-ンカイ=チェーン=ドウ クスカシ フィータス°。
(その 話は 太郎-に=だけ 聞かせて あげた。) 西里

1. 1. 多義的な意味によるタイプの違い

数は少ないが、同じとりたて助詞が多義的な意味の違いによってタイプの異なるばあいがある。

沖縄語那覇市泉崎方言のン (も) が共存を表すとき、主格を表すガ、ヌのばあい、格助詞と入れ替わるタイプ (b) の現れ方をするが、それ以外のときは格助詞の後に付くタイプ (a) である。しかし、ン (も) が極端の意味で使用されるとき、主格のガに付いて主語として主体を明示しながら極端の意味を付加する¹⁴。

- (27) ショーガクセイ-ガ=ン ツクイユースルムヌ、 ?ヤーヤ ツクイユースンナー?

(小学生=が=さえ 作れるのに、おまえは 作れないのか?) 富祖崎

- (28) ガンジュースル ニーセーター-ガ=ン ナランムヌ ?ヤーガー ナランサ。

(屈強な 青年達=が=さえ できないのに、お前には できないよ。) 富祖崎

¹² とりたて助詞ドウ・ルは特立の機能しか持っていない。この特立のドウ・ルは、様々な形式を述語に持つ文に現れる。文の部分をとりにたてる特立の機能しか持たないドウが文末の述語形式と支配・被支配(係り結び)の関係を持たない。したがって、とりたて助詞が文の最も重要なモダリティの形式を支配する能力を持っていないことは明らかである。山田健三(2004:15)は、「係り助詞(I・II)は、述部の諸活用形に選択されて出現し、原則としてそこに義務的な関係はない」と述べ、係助詞=焦点助詞と文末の述語との間に「義務的な関係がない」(=支配していない)と論じている。山田(2004)は古代日本語の係助詞=とりたて助詞が文末の活用形を支配していないことを主張している。詳しくはかりまたしげひさ(2011a)を参照。

¹³ 久高島方言に見られる無声の歯茎弛緩音をサ行のカナ文字に半濁点を付して表す。

¹⁴ バイリンガルの年配の話者が日本語を話すとき、「がも」のように主格の「が」に「も」を付けて話す(「小学生がも作れるのに、おまえは作れないのか」)。なお、主格のヌについても同じことが起きるのかは未確認である。

1.2. とりたてと格のからみあい

格助詞もとりたて助詞も現れるタイプ(a)と(c)は、とりたて無しの文が表す対象的な意味(格関係)ととりたての意味が分かりやすい。

- (29) アカヌ タニン-ヌ=ル ユミ ナインドー。
(あかの 他人がコソ 嫁に なるんだよ。) 富祖崎

一方、格助詞にとりたて助詞が置き換わるタイプ(b)は、格助詞は明示されていないが、とりたて無しの文が表していた対象的な意味(格関係)はそのまま残っていて、対象的な内容は変わっていない。(30)は主体を表すガ、(31)は主体を表すヌ、(32)はあい手を表すンカイが隠れている。前述の(11)~(14)の用例は主体を表すガが隠れている。後述の(40)~(50)のとりたて助詞カラも主体や動作が行われる時間、手段、相手、行先等を表す格助詞が隠れている。

- (30) ハナコヤ イフィシカ ヌマンタシガ、 ミミ=マディ アカサタン。 富祖崎
(花子は 少ししか 飲まなかったのに、 耳=まで 赤かった。)
(31) ハナコヤ イピッチャシカ ヌマツタンヌウガ ミム°=ガミ アカカタス°。 西里
(花子は 少ししか 飲まなかったのに、 耳=まで 赤くなっていた。)
(32) シンカイヌ トウチャ ワラビンチャー=マディ ティガネー シミーン。 富祖崎
(稲刈りの ときには 子どもたち=まで 手伝わせる。)

格助詞が現れる(a)と(c)だけでなく、とりたて助詞しか示されていない(b)がとりたての意味しか表していないわけではなく、文中の物事間の格関係が表されていることに変わりはない。

3. とりたて助詞カラ

とりたて助詞カラは、出発点や始まり時間を表す格助詞カラと同音形式である。これは極端のマディと到達点等を表す格助詞マディが同音形式であるのと同じである。とりたて助詞カラは、文中の物事を現実世界の類似の物事の中からとりたてて、文中の物事が先に実現することを表す¹⁵。

宮古語の序列のカラは格助詞の後に付くタイプ(a)である¹⁶。なお、次の(33)から(39)までの例はすべてとりたて助詞が格助詞と置き換わるタイプ(b)に言い換えることが可能である。

¹⁵ 宮古大神島方言と八重語波照間方言の序列のカラについては金田章宏・周玥(2021)が詳しい。なお、金田章宏・周玥(2021)は日本語のカラに序列のとりたての意味があることも論じている。

¹⁶ 序列のカラは付きやすい格助詞と付きにくい格助詞がある。格助詞カラ、マディ、ユッサ°には付かないか、もしくは付きにくい。格助詞ンが相手や行先を表すときは付くが、動作の行われる時間を表すンには付きにくい。格助詞ごとの制限、用法による制限については確認できていない。宮古語以外の琉球諸語についても未確認である。なお、他のとりたて助詞に付いても同様の課題がある。

- (33) バンタガ ヤーウテャー ス°サ°-ガ=カラ サクスン サキューバー ヌム°。
 (私たちの 家では 父-が=から 先に 酒を 飲む。) 西里 主体
- (34) コーッサ ヴヴァ-ガ=カラ ファイ。
 (お菓子は 君-が=から 食べる。) 西里 主体
- (35) バーヤー スゥー-ユ=カラ フォータス°。
 (私は 野菜-を=から 食べた。) 西里 客体
- (36) ス°ス°ウー=カラ ファイッティ スースウバー アトゥン ファイ。
 (魚-を=から 先に 食べて 肉は 後で 食べる。) 西里 客体
- (37) コーッサ ハナコ-ン=カラ フィータス°。
 (お菓子は 花子-に=から 上げた) 西里 相手
- (38) エイサーヤ コザ-ン=カラ=ドウ サクスン パズマス°タス°。
 (エイサーは コザ-で=から 先に 始まった。) 西里 場所
- (39) ギンコー=ン=カラ イキッティ、 ヤクバンナ アトゥンドウ イクスタス°。
 (銀行-に=から 行って 役場は 後で 行った。) 西里 行き先

序列のカラは、表2に示したように宮古西里方言ではタイプ(a)と(b)の現れ方をするが、宮古西里方言以外では格助詞と置き換わるタイプ(b)しか見られない。

表2 序列のとりたて

	お菓子は 花子= <u>から</u> 上げた。(b)
宮古島市西里	コーッサ ハナコ-ン= <u>カラ</u> フィータス°。(a)
	コーッサ ハナコ= <u>カラ</u> フィータス°。(b)
大和村国直	?クァシヤ ハナコ= <u>ラ</u> クリィ°タ。(b)
今帰仁村謝名	?クァーシヤ ハナコ= <u>ラ</u> トウラチャン。(b)
名護市我部祖河	クァーシヤ ハナコー= <u>カラ</u> イラーチャン。
南城市久高島	クァーサー <u>ハナコ=<u>ラ</u></u> キタサ°。(b)
沖縄南城市佐敷富祖崎	?クァーシェー ハナコー= <u>カラ</u> クィタン。(b)
石垣市石垣	コースェー ハナコ= <u>カラ</u> ヒーダ。(b)

カラはこれまでとりたて助詞とは認定されてこなかった。しかし、とりたてのカラに置き換わってはいるが、とりたて無しの文の格関係は維持されていて対象的な意味は変わっていない。とりたて助詞が文中の物事を現実世界の類似の物事の中からとりたてる働きをもつという定義に照らして、助詞カラが、文中の物事が現実世界の類似の物事よりも先に実現することを表すととりたて助詞であることは間違いない。序列のカラは琉球諸語全体に見

られる。

(40) ワッター ヤーカイヤ チャーチャー=ラ サキ ヌミン。知念村久高島
(私たちの 家では 父=から 先に 酒を 飲む。) 主体

(41) クァーサー ?ヤー=ラ ケーバ。知念村久高島
(お菓子は 君=から 食べる。) 主体

(42) ワナー ヤセー=ラ カータン。知念村久高島
(私は 野菜=から 食べた。) 客体

(43) イユ=ラ カティ シシャー アトゥーラ ケーバ。知念村久高島
(魚=から 食べて 肉は 後で 食べる。) 客体

(44) ギンコー=ラ ンジ、 ヤクバー アトゥラ ンジャン。知念村久高島
(銀行=から 行って 役場は 後で 行った。) 行き先

(45) エーサーヤ コザ=ラ メーカイ プァジマタン¹⁷。知念村久高島
(エイサーは コザ=から 先に 始まった。) 場所

(46) エンピツ=ラ ハチ、 ペンサーマ ウイラ ハキバ。知念村久高島
(鉛筆=から 書いて、 ペンで 上から 書け。) 手段

(47) ?ユー=カラ ?カーティ ?ワーシヤ アトカラ ?ケーバ。名護市我部祖河
(魚=から 食べて 肉は 後で 食べる。)

(48) ギンコー=カラ イジ、 ヤクバヤ アトージ イジャン。名護市我部祖河
(銀行=から 行って 役場は 後で 行った。)

(49) ?クァシヤ ハナコ=ラ クリイ°タ。大和村国直
(お菓子は 花子から 上げた。)

(50) ギンコー=ラ イジ、 ヤクバチヤ アトージ イジャ。大和村国直
(銀行から 行って 役場には 後で 行った。)

3.1. 日本語のとりたてカラ

渡辺義夫(1983, p. 380)は、日本語のカラ格の名詞と動詞の結びつきのなかに「序列的な結びつき」を取り出し、次のように述べている。

序列的な結びつきは、次のように、主格、二格、ヲ格の結びつきの中にわり込んで、その動作の“はじまり”を述べたてており、

(イ) 230) その研究は、永久凍土地帯の分布の調査から始められた。 (冬・189)

(ロ) 231) そんな不慣な職業をイロハのイの字から始めて、 … (春・241)

(イ) 233) もう冬が来て、土地は表面から凍り始める。 (冬・189)

(ロ) 245) …松陰に立ちながら封を披いた。まず写真から見た。 (黒・153)

¹⁷ 久高島方言に見られる無声の両唇弛緩音 p°a, p°i, p°o をフ°ア、フ°イ、フ°オのようにプと、ア、イ、オを組み合わせる。

246) 妻から先へ乗せた。小舟は押し出された。(小・187)

渡辺義夫(1983)は、とりたて助詞が格助詞と置き換わる(b)のタイプのことを「主格、二格、ヲ格の結びつきの中にわり込んで」と述べている。渡辺義夫(1983)のいう「序列な結びつき」に現れるカラは、本発表のタイプ(c)の序列を表すとりたて助詞である。

参考文献

- 金田章宏・周玥(2021)「「とりたて」としての名詞カラ形—南琉球諸語から日本語を考える」『対照言語学研究』海山文化研究所、28、19-39
- 狩俣繁久(2022)「沖縄語名護市饒平名方言の焦点構造とモーダルな文のタイプ」『シマジマのしまことば』3号、116-133
- 狩俣繁久(2021)「宮古島市平良西里方言の形容詞と格・とりたて」『シマジマのしまことば』2号、152-184。
- 狩俣繁久・狩俣幸子(2021)「沖縄県伊江村(伊江島)西江前方言の格・とりたてと形容詞」『シマジマのしまことば』2号、83-121、
- 狩俣繁久(2020)「沖縄語那覇方言の焦点助詞と情報構造」『南島文化』42号、沖縄国際大学南島文化研究所紀要 101~110
- 狩俣繁久(2019)「琉球語のとりたて表現」『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版、77-95
- かりまたしげひさ(2017)「琉球語那覇方言の du のとりたて性—琉球諸語に係り結びはあるか—」『琉球アジア文化論集』第3号、25~41、
- かりまたしげひさ(2011a)「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』第7巻4号、日本語学会、69-81。
- かりまたしげひさ(2011b)「モーダルな文のタイプと焦点化助辞」『日本東洋文化論集』第17号、琉球大学法文学部紀要、1-26、
- かりまたしげひさ(2010)「琉球方言の焦点化の助辞—形態論的なてつづきをかながえる—」『琉球アジア社会文化研究』13号、琉球大学琉球アジア文化研究会、19-36、
- かりまたしげひさ(2008)「名護市幸喜方言の名詞の格=とりたて—ga格、nu格、ハダカ格、jaのとりたて形—」『日本東洋文化論集』第14号、1-80、
- かりまたしげひさ・島袋幸子(2007)「沖縄方言のとりたてのくつつきとかかりむすび—今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい—」『日本東洋文化論集』第13号、1-29
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』512、むぎ書房
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語の文法5 第9部とりたて第10部主題』くろしお出版
- 沼田善子・野田尚史編(2003)『日本語のとりたて—現代語と歴史的変化・地理的変異』3-22、くろしお出版
- 山田健三(2004)「係り結び・再考」『国語国文』73-11、15-33、京都大学
- 渡辺義夫(1983)「カラ格の「名詞と動詞のくみあわせ」」『日本語文法・連語論(資料編)』351-395、むぎ書房